

第 12 回目の主題： 表組み

1. 今日すること

beamer パッケージを使用して、数学 (もしくは算数) の適当な題材について紙芝居風のスライドを作成せよ。表をひとつ以上入れること。できれば、図も加えてみること。(図の取り込み方は前回以前のことを参照。)

- メール の 件名 は 「計算機数学レポート No.12」 .
- 提出 は pdf ファイル。
- 不明な点、うまくいかない点がある場合には、該当のファイルも添付していただけるとありがたいです。

2. ヒント

◎ (表は別に beamer と関係なく、article, amsart,jartcle などの documentclass で使える。)

◎表組の例

```

\begin{tabular}{|c|c|c|c|c|c|c|c|c|c|c|c|c|}          %(あ)
\hline                                                  %(い)
元 & $e$ & $a$ & $a^2$ & $a^3$ & $a^4$ & $a^5$ & $a^6$ & $a^7$ & $a^8$ & $a^9$ & $a^{10}$ & $a^{11}$ \\
& & & & & & & & & & & & & \\
\hline
位数 & & & & & & & & & & & & & \\
$1$ & $12$ & $6$ & $4$ & $3$ & $12$ & $2$ & $12$ & $3$ & $4$ & $6$ & $12$ \\
& $2$ & $12$ & $3$ & $4$ & $6$ & $12$ \\
\hline
\end{tabular}
    
```

実行結果:

元	e	a	a^2	a^3	a^4	a^5	a^6	a^7	a^8	a^9	a^{10}	a^{11}
位数	1	12	6	4	3	12	2	12	3	4	6	12

- tabular 環境を使う。引数として、どんなものがどのくらい並ぶかを書く。(あ)
 上の場合では、各欄の項目を中央に書くという書式のもの(c)を13個並べている。各項目が縦線で区切られるように、|を用いる。ちなみに、 a^{10} と a^{11} の間の仕切りのみ、わざと|を抜かしてみた。
- 横線は \hline (い).
- 行の区切りは\\ (う).
- 各項目の区切りは &.
- 表自体は数式としては扱われないので、項目として数式を入れるときにはそれぞれを\$で囲むこと。
- 上の表のような項目数の多いものから始めるのではなく、小さいものからはじめよう。そのほうが楽である。

邪道なヒント:表組みの際、(あ)のcは多めに書いてもエラーが出ないが、(う)の&は多いとエラーが出る。

表組みは結構奥が深いので詳しいことは教科書参照。(もちろん web で検索するのもよい。)